

も 買ったオリーブの苗木は、鉢植えにして玄関脇に置いた。秋口までここには、松、梅、つじ、千両、釣り忍などなど、昭和の庶民住宅の常連たちがいたのだが、思い切つてすべてに引退してもらった。ブロック塀も取っ払って、ただのセメントの平面にしてみると、手の内を晒して、これで全部でございませう、と言つてるような気分になって、予測していた後ろめたさや気恥ずかしさは感じなかった。現金なもので、なくなつてみると、ブロック塀などにゆえあんな重苦しく無粋なものを当たり前と思つていたのと不思議にさえ思うのだ。

オリーブの鉢を置いて眺めていたら、梢の先が小さく揺れたと思つたら、団扇で扇ぐみたいにパタパタと震えた。それを見たとき、必要なものはこれだったんだ、と分かつた気がした。これまで見えなかつた風がそこに見えたのだ。たぶんオリーブを選んだのも葉が細くてからんとしている上に、間が透けていて風通しがよさそうだったからだ、きっと。隙間があれば何かを植えて石を置き鉢を並べていた両親の反動だな、これは。ぼくは長いことかけてこの家で、澁んだ空気への嫌悪感を育てていたのかもしれない。皮肉なことだが、それが、満たすことに懸命だった人たちから受け取つたものなのだ。

鉢一つだと所在なげなので、その話し相手に少し離して小さめのオリーブを置くことにした。実をならせるには違う種類が必要で、その数は夥しいのだが、相性の良し悪しでいくつかに絞られる。目当ての種類を求めて、ホームセンターや花屋を巡つた。知らなかつたが、今オリーブの人氣は高く、どこでもけつこいな数の苗木が売っていた。ところがほしい種類がどこにも見あたらない。あきらめて帰りがけ、買い物にスーパーに寄つたところでひよいと見つけた。マーケットの一角にある花屋だが、お世辞にも世話が行き届いているとは言えず、枯れたポットが平気で並んでいて、はなから探す対象にしていなかつた店である。ひよつとしてと雑草が生えるに任せた苗木ポット群をかき分けると、あつた。虐待まがいの多頭飼育の中から救い出したような気になつた。本で見た「よい苗の選び方」で言うところ、選んではいけない側なのだが、見つけてしまったのだから仕方がない。むしろ良家の出自でないのがおもしろいではないか。安いし。

專業ババ奮闘記 (その2) 97

## 木幡智恵美

整理 (4)

廊下、押し入れ数か所の片づけをあらかた終えた時には、義母の部屋に物が随分溜まつた。捨てていいか判断がつかないものを集め、夫に最終判断を頼むためだ。夫は「一年使わないものは捨てる」と言いながらほとんどを廊下に出し、ゴミ処理場に搬入することになつた。

週末、娘が三人の子どもを連れてきて、「寛大の声が変なので耳鼻科に連れて行く」と、実歩と宗矢を置いていった。実歩は庭で遊び、ガラス越しに宗矢と私でその様子を眺める。実歩が家に入つてからは二階の娘の部屋でCDを聴いたり、絵本を手にしたり。そのうちに娘たちが帰つて来た。寛大は軽い風邪とのことだ。昼食後、娘、実歩、宗矢が昼寝したあと、寛大は私とゴム鉄砲を作つたり、ブロックで遊んだり。

義母の部屋から出てきたもので、再利用できるものは空になつた押し入れに収めている。三時のおやつの後、「要る物があれば、持つて帰つて」と娘に言うのと、衣装ケース五個、数珠、タオル類、かばんに傘と、どんどん玄関まで運び、押し入れの中は半分くらいになつた。翌日は、義姉と姪がやつてきて、花瓶、茶器、額、服など、「これ、いいね」と言いながら選んでいる。夫が整理した写真類の中には、義姉や姪のアルバムとか写真が結構あり、二人は「わあ、懐かしい。晩御飯はこれを肴にするわ」と持ち帰る荷物に重ねていった。

その夜のこと、寛大ではなく宗矢が熱を出したと娘から連絡が入り、翌日は我が家で預かることになった。四十九日の法事の前日なので、あれこれ準備をしなくてはならず、朝のうちに、茶菓子などを買いに行く。帰つてすぐ、娘がかかりつけ医から直に我が家へ。「扁桃腺が腫れてるつて」と、だるそうな目をして手を出す宗矢と薬を置き、その足で娘は職場に向かつた。熱のせいとか、のどが痛むからかぐずぐず言うので、ほとんど抱っこして過ごす。そのうち胸の中で眠り、昼過ぎによく目を覚ました。熱を測ると三十九度を超えていたので、解熱剤を飲ませる。昼食は食べるが飲み込むのが難儀そうだ。それでもお茶を飲んでくれるので助かる。託児所に行くようになって一月半、疲れが出たのかもしれない。迎えに来た娘に言った。「明日の法事は出なくていいよ、宗矢の傍にいて、ゆつくり休ませてやつて」



30代フリーター やあ、ジイさん。

「日本でマスクを外せる日はいつ？」というコロナ関連の記事を見た（5月1日毎日新聞ウェブ版）。「欧米では感染状況を踏まえ、着用義務の撤廃や緩和の動きが広まっているが、国内での議論は低調だ」と記事は伝えてい

る。

年金生活者 4月初め、楽天グループの入社式が出席者全員ノーマスクだったことをツイッターで知った。日本人のマスク一斉着用が同調圧力によるものだとすれば、別の同調圧力があれば一斉にマスクを外すだろうと思った。

30代 なぜ楽天はノーマスクにしたんだ？

年金 入社式を報じるニュースサイトの写真にはマスク姿はひとりも写っていないのに、記事ではそのことにふれられていないので、理由はわからない。

社員どうしが互いに顔を覚えられるようにという狙いからかもしれない。若い人がほとんどなので、感染者が出てても重症化する恐れがあまりないとい

年金 権力関係は一方が他方を無理やり従わせることだけで成り立っている

のではない。従う側に自ら進んで従おうとする意志が大なり小なり必ず存在する。それが同調圧力を形成する。私たちの国ではそれが形成されやすいことをコロナは示した。

30代 コロナ予防のマスクがいつごろからか「顔パンツ」と呼ばれるようになったのを思い出した。

年金 そんな呼び方をするのは、少なくとも先進国では日本くらいではないか。女性器を象徴する口と男性器を象徴する鼻を覆い隠すパンツ。衛生のためのはずが、マナーのためになり、合理的な動機よりも神話的な動機が日本人にマスクを着けさせている。

そこには、日本と欧米の「自然観」の違いが垣間見える。自然は人間に恵みを与える一方で猛威を振るう。自然の一部である女性器も男性器も同様であり、そうした自然の両面が集中している器官と言える。そんな自然の危うさが表に出ないように覆いをかけるの

う判断もあつたかもしれない。

どっちにしても、出席者がそれぞれの判断でマスクをしないと決め、それがたまたま全員一致の結果になったということはあり得ない。会社の指示または誘導があつたと推定するほかにい。そうなると、今までマスク着用を促していた同調圧力が一転してノーマスクを促す力となる。

30代 マスクはコロナが生んだ同調圧力の中でも最強だ。

年金 マスクを着ける主な目的は医療従事者と患者とでは違う。前者は患者からの感染を防ぐため、後者は他人への感染を防ぐためだ。この違いは医療上の違いだけでなく、権力を行使する側にある前者と、行使される側の後者との違いでもある。

わかりやすくするために、極端な言い方をするなら、マスクは医療従事者にとつては危険から身を守るための城壁であり、行動の自由を保持するための盾であるのに対し、患者にとつてはわが身が閉じこめられる監獄、自由を

がパンツだ。

欧米的な考え方では、自然は手を加えて変える対象とされる。これに対し、日本的な考え方では、自然にはあまり手を加えず、さわらぬ神にたたりなしとばかり、危ない部分には覆いをかける。欧米の自然観は合理性を求め、したがってマスクもあくまでも感染予防のためだけに着用される。新型コロナウイルスが下火になった現在、欧米の人

制限される拘束具に相当する。前者は支配する側に、後者は支配される側にそれぞれ配置され、両者の間には権力関係が生じる。

新型コロナウイルスの流行下では、権力を行使される側、支配される側としての患者の立場が、患者でない一般の国民にまで拡張された。国民は他人への感染を予防するのを主目的にマスクの着用を求められた。「風邪症状があれば、外出を控えていただき、やむを得ず外出される場合にはマスクを着用していただくようお願いします」と（厚生労働省ホームページ）。

この権力関係のおおもとにあるのは、権力としての医療界と、その権力を行使される側の一般国民との間の目に見えない関係であり、マスクはそれを可視化する役割を果たしている。したがって、一般国民にとつて、マスクを外すこと、着用しないことは、部分的にせよ抑圧からの解放を意味する。

30代 その解放を大多数の国民が目指そうとしない。

びとの姿を伝える映像はたいがいマスクなしの姿だ。

消費行動の分析などをする「プラネット」という会社が2021年3月、マスクに関する意識調査で「あなたは、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたあとも外出時にマスクをしようと思いませんか」と尋ねたところ、「外出時は積極的にマスクを身につけようと思う」が24・5%にのぼった。コロナ禍が終わっても4人に1人が外出時に積極的にマスクをするという調査結果は、感染予防のためという合理的な理由からは説明できない。マスクを「顔パンツ」と考える神話的な思考の強さを示しているといつていい。

30代 で、ジイさん自身はマスクをどうしてるんだ。

年金 外を歩くときは少し反抗的な気分になって着けないようにしている。それでもやはり人目が気になる。それは下半身に何も着けないで外に出る夢を見たときのような不安に似ているかもしれない。

ニュース日記 829  
中村 礼治

## 日本人がマスクを外す日